

提出された意見等の概要とこれに対する考え方

案件名 : 神戸（表六甲河川）地域総合治水推進計画（案）
意見募集期間 : 平成27年2月20日～3月5日
意見等の提出件数 : 13件（4人）

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
全体	総合治水計画として、河川や砂防の取組みの記述はあるが、海側からの対策が書かれていない気がします。港湾との連携はしないのでしょうか。	1	<既に盛り込み済みです> 兵庫県では海から山までの水系一環の防災対策の推進を目指していますが、今回の総合治水では雨が起因となる災害の軽減を目的としており、津波等地震が原因となる災害は対象外としています。
	自分のまわりで総合治水のことを尋ねてみても、ほとんど知っている人に会うことがありません。広報誌、新聞等でPRをしているとのことですが、さらに認知度UPへの取組みがあるのではないのでしょうか。	1	<既に盛り込み済みです> 本協議会においても、総合治水の認知度の低さが議論となり、本文P106「9.1自主的な取組みを促す活動」を記載しています。 こうしたPR活動を進めて、まずは総合治水を知ってもらい、一人でも多くの人に取り組んでもらえるよう努めていきます。
	神戸市内では地形上、川沿いの一部の人しか水害に対して、意識していないのではないのでしょうか。現に私も住んでいる土地柄、水害の意識は全くありません。流域対策を行うなら、もっとアピールが必要だと思います。宣伝の仕方を考えた方が良くと思います。	1	<既に盛り込み済みです> S42年7月水害では、河川沿いだけでは無く道路を伝って河川から離れた所にも浸水範囲が広がりました。このように、浸水が想定される地区以外でも想定を越える降雨で浸水被害が発生する可能性があるため、浸水が想定されていない区域も含めて市内全域で、流域対策「ためる」、減災対策「そなえる」を合わせた総合治水の推進をPRしていきます。
河川 下水道 対策	P41の河川対策で「日常の点検をとおした維持管理」のような表現のあった方が良くように思います。	1	<既に盛り込み済みです> 河川管理者が行う維持管理の代表的な業務を列記している箇所であるため、案のとおりとします。
	堆積土砂撤去等の具体例を挙げて適切な維持管理を行うとなっているところですが、具体例の中に、「護岸や堤防の点検」を加えた方が良くように思います。対象河川においては、護岸の点検、維持管理が大切なように思われるためです。	1	<反映します> P44の2～3行目「…うち、本計画期間内で着手可能な整備を実施する。洪水時に河川管理施設が十分に機能できるよう、定期的に堤防や護岸の点検を行った上で、必要に応じて…」を追記します。
	もっと身近に川に降りられる場所を増やしてほしいです。	1	<今後の参考とします> これまで住吉川や都賀川、生田川、福田川等では、河川沿いに容易に水辺に近づくことができる遊歩道や親水公園を整備してきました（P33～P35）。しかし、表六甲河川は密集市街地や地下を流れる河川も多く、限られた条件の中で川の断面積を大きく確保する必要があることから、残念ながら簡単に水辺に近づけない箇所も存在します。 P104「8.2 河川環境に配慮した河道改修や連続性の確保」の最後の行には、河道改修にあたって「県民が川とふれあい親しむことのできる水辺空間の整備に努める。」ことを記載しており、今後の河川整備の参考とさせていただきます。
流域対策	表六甲は既にほぼ全域が開発されているので、小さな貯留施設では効果がないと思う。	1	<既に盛り込み済みです> 流域対策「ためる」の基本的な方針（P41）に記載したとおり、貯留施設の規模や効果が小さくても、これらを積み上げることで浸水被害の低減に繋がると考えています。特に、初期降雨の貯留により近隣の道路冠水などの小さな内水氾濫が軽減できると考えています。
	各戸貯留の取組みで、タンク設置の例（P67）があげられていたと思うが、取付け等で補助があれば興味を持つ人も増えると思う。	1	<今後の参考とします> 各戸貯留は身近な道路冠水等の低減に効果があると考えています。また、タンク設置による家計へのメリットもあることから、これらを合わせて情報提供、意識啓発を進めていきます。 助成制度の導入については、財源の問題、県と市の役割分担などを議論する必要があることから、今後の検討課題とします。

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
減災対策	増水警報装置は都賀川の例から注意報、警報が出てからでは遅い場合もあるのではないのでしょうか。実際の降雨、水量に応じた対応が必要かと思えます。	1	<p><既に盛り込み済みです> 都賀川については、P20に記載したとおり、注意報・警報発表時には回転灯点灯や電光掲示板による危険性の周知、また、親水階段を門扉で閉鎖する取組みを行っています。さらに広報紙・チラシ配布により安全利用にかかる啓発もを行っているところです。</p>
	人命を守るのなら、洪水予報や警報装置などのシステムを強化すべきと考える。	1	<p><今後の参考とします> 例えば、県民の自主的避難に役立つ情報の提供として地域別土砂災害危険度を5kmメッシュで配信していますが、平成27年度には1kmメッシュに細分化する予定です。このようにシステムの改良・増強を随時行っていきます。</p>
	巻末にアンダーパスの位置図があるが、新神戸駅から南下してJRをくぐる所とかも危険な気がします。何故入っていないのでしょうか？(その他の箇所も)	1	<p><今後の参考とします> 豪雨時等に冠水・貯留する危険性があるアンダーパス(道路面が特に低く、雨水が集中しやすいところ)を表示しており、単なるガード下は反映していません。しかし今回示した地点以外でも冠水の危険性がないとは言えませんので、今後のゲリラ豪雨等の雨の降り方も踏まえ、追加することを検討します。</p>
環境	水質事故に関する追記について。水質事故については、P104で書かれていますが、2.現状と課題(P36)や、4.基本方針(P43)のところに、水質事故の防止軽減対策・対応や体制についての記述があった方が良いように思います。	1	<p><反映します> P36の最後に「<u>また、突発的な水質事故発生時には神戸市環境局が市役所内の関係部局(建設局、水道局等)並びに県神戸土木事務所に連絡通報し、協力して被害の拡大防止に努めています。</u>」を追記します。 更に、P43の最後に「<u>突発的な水質事故については、今後も関係機関や県民との連携により、早期発見や速やかな対応に努めます。</u>」を追記します。</p>
その他	この推進計画(案)の記述に直接関係する意見ではなく、一般的な要望ですが、整備途上における災害発生を想定し、より実践的なソフト対策(行政と住民が一体的に対応するような)システムの一層の充実を望みます。	1	<p><今後の参考とします> ご意見のとおり、整備途上における災害を想定し、行政と住民が一体的に対応するようなシステムは有効な対策となると思われます。 今後のシステム整備の参考とさせていただきます。</p>